

## 訓 示

平成二十年度の年度当初にあたり、職員の皆さんに一言ごあいさつをいたします。この季節は、多くの方々にとりまして節目となる月であります。特にご家族で入学・卒業・就職等、おめでたいことがあった方々に対しましては、心からお祝いを申し上げます。さて、私は、市長就任以来、「夢と希望の持てるまち」の実現を市政運営の基本理念として、市民生活に直結する、きめ細かな各種行政サービスを推進することに、全力で取り組んできました。これは、子どもたちに夢と希望に満ちた限りない未来を残していくことを大きな柱としており、子どもたちが「ここに生まれて良かった」、「ここに住んで良かった」と思ってもらえるような蕪崎市をつくっていかねばならないと考えるからであります。この基本理念を実現するキーワードは「絆」であると考えております。人と人との「絆」、仲間との「絆」、地域の「絆」、市民と行政の「絆」、さまざまな「絆」を大切に、「思いやり」の心を育みあう中でお互いの信頼関係が深まっていくものと思っております。もう一つのキーワードは、「市民参画と協働」であります。今年度は、新たな「長期総合計画」を策定していくとともに、持続的に成長し続ける「夢と感動のテーマシティ・にらさき」の実現を図るため、多くの新規事業に取り組む初動の年であります。このまちづくりのための今後の施策展開については、多くの市民の参画をいただきながら、詳細な実行計画を検討することとしております。今、少子高齢社会を迎え、財政基盤や人的資源が制約を受ける中では、これまでと同じように行政が全ての分野にわたって、サービスを提供することが困難な時代になってきております。今後、市民参画をより一層推進し、住民自治の推進や協働のまちづくりを進めるためには、改めて「補完性の原則」である「自助、共助、公助」の適切な役割分担と連携に基づいて実施していく必要があります。ご承知のように、先の市議会定例会の所信表明において、今年度の施政方針と私の思いを述べさせていただいております。このため、その内容には、あえて触れませんので、是非一読していただきたいと思っております。私といたしましては、議会審議の中でのご指摘や市民の声を丁寧に汲み取る中で、様々な諸課題の解決の可能性を探りながら、進むべき方向性を見極め、職員の皆さんとともに、これまで積み重ねてきた努力に加え、さらに重い決意を持って、今後の市政運営にあたらなければならないと考えております。今、求められるのは、職員が一丸となって市民の為に何ができるかという意識を持つことです。これらのことを踏まえ、先ほど、昇任を含む実質的な定期異動者 百五十三名並びに新規採用職員 十一名計 百六十四名 への辞令の交付を行い、本日から新しい体制で新年度の事務に臨んでいただくこととなります。今回の人事異動は、まず一つ目に、職員から提出された「希望と意見」を最大限に反映させるよう十分配慮し、適材・適所の異動を行いました。また、新たな政策課題や重要施策を抱える部署に重点的に職員を配置するなどメリハリのある職員配置に努めました。二つ目に、ジョブローテーションによる若手職員の活性化と、個性と能力を十分発揮していただくための専門職的な人材育成を図っていくことといたしました。三つ目に、団塊世代の退職期における次年度以降を見据えた弾力的配置といたしました。四つ目に、組織改正として、「市民課環境保全担当」を「環境政策担当」とし、環境政策を重点的に推進するため、機能強化を図りました。また、保健師、社会福祉士、管理栄養士が専門性を発揮する中で相互の連携、業務の効率化を図るため、組織体制を見直したものであります。そして最後に、五つ目として、本市の重要施策を強力に推し進める推進力として、スタッフ職である政策専門官を新設し、部局を超えた横断的な施策を推進していきます。以上、今回の人事異動にあたっての基本方針についてお話しましたが、異動された皆さんは、新しい職場に対する不安もあろうかと思いますが、今回の異動を契機に認識を新たに、新しい分野には積極的に挑戦していただきたいと思っております。本市でも、数年後には、いわゆる団塊の世代の退職が見込まれます。本市の更なる発展のため、管理監督職はもちろん、中堅職員の皆さんは、組織としての人材育成の視点を強烈にお持ちいただき、今までの豊富な経験とノウハウを伝承していく「O J T」の重要性を再認識され、部下の育成が日々の職務の大きな柱であることを肝に銘じていただきたいと思っております。ところで、新規採用職員はもとより、若手職員の皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、行政の仕事は、チームワークが最も大事だということです。このチームワークを大事にしながら、是非、斬新なアイデアを積極的に提案していただきたいと思っております。その提案が市民ニーズを的確に捉えている

ものであれば、一度や二度の上司の駄目だしに尻込みせず方向性や切り口を変えて、積極果敢にチャレンジしてください。また、皆さん方は、「市」という組織に属しているわけですので、個人としてではなく、組織の一員としても信頼されることが大切であります。先ほども申し上げましたが、自分に対する厳しさと同時に他人に対する思いやりを持つことが、信頼を得る第一歩となっていくものであります。皆さんの力が、将来の蕪崎市のまちづくりの原動力となるということを肝に銘じ、時代の流れを敏感に受け取り、公務員としての使命感を持ちながら、それぞれの職場で活躍されることを期待しております。私が常々申し上げております開かれた市政という言葉のとおり、幅広い市民のご意見やご要望に耳を傾けていくことはもちろんですが、職員の皆さん方も、今後の課題解決に向けた実り多い議論を一層活発にしていきたいと考えております。これからも、自分自身の考えをしっかりと持っていていただき、蕪崎市の将来を真剣に、そして新しいまちづくりへの工夫を求めて、努力を惜しまれることがありませんよう、お願いしたいと思っております。皆さん、本日から平成二十年度が始まります。本年度の事業については、予算要求からの一連の作業の中で、そのストーリーは既に決まっておりますので、今日から気持ちをリセットして新年度事業に取り組み、市民のニーズに応えてくださるようお願いいたします。最近市民の方々も積極的に市政に参加しよう、また、自分たちで出来る事は自分たちでやろうという方々も増えてきています。市民と共にこの蕪崎市を盛りあげていこうではありませんか。その際、市民は何を求め、何を望んでいるのかをすばやくキャッチし、今、行政は市民のために、何をすべきかを考えていただきたいと思います。そのためには、職員の皆さん一人ひとりが、意識を変えていただき、やる気を前面に出していただきたい。この意識改革なくして、厳しい自治体間競争には、生き残れないということを肝に銘じ、職務に精励してください。真剣にやると、知恵が出る。中途半端にやると、愚痴が出る。いい加減にやると、言い訳しか出てこない。仕事をしていくうえでも、「愚痴」や「言い訳」ばかり言っている人は、中途半端でいい加減になってしまいます。やるなら徹底的にやる、そして真剣に取り組むことで見えてくる本物を目指していく。

おおわき ただし

これは、全国商工会議所 青年部連合会第二十代会長 大 脇 唯 眞 さんが話されたことです。ぜひ職員の皆さんには、本市のあるべき未来像を胸に描き、失敗を恐れない勇気をもって、何事にも真剣に取り組んでいただくことを期待するものであります。職員の皆様におかれましては、一人ひとりが自分の健康は自分で守ることを心がけ、常に健康な体で心一つにして、「夢と希望の持てるまち」の実現に向け、各自の力を最大限発揮していただくようお願いし、年度始めにあたりましての訓示といたします。